りんごだより

草笛学園　　２０２４年　　１１月号

日中のぽかぽかとしたお日さまがより暖かく感じられるほどの、朝晩の冷え込み。晩秋の気配が深まる頃となりました。これから一段と寒くなる季節に負けず、戸外あそびも楽しんでいきたいですね！体調にはお気をつけください。

発達はかけがえのない私を築くこと
～　マイナスをふくむ過程としての発達　～

人間が発達する過程では、意味を感じ、主体的に自分を変えようとしながらも、簡単には変われずに苦労するという時期を必ず経ることになります。保健所の「親子教室」に来ている子どもたちは、出席のシール貼りの時に前に出たがったり、友だちを押したりする子が多く、トラブルが頻発しがちです。保育士のすることに意味を感じ、自分もしたいと思うから前に出ていくし、自分の前を遮った子を押したりしてしまいます。意味を感じてしようとするからトラブルになり、叱られるという矛盾を抱えるのです。関心がなければトラブルも起きません。順番が来ればできると見通せるようになればトラブルはぐんと減りますが、見通す力量がつくまではトラブルが発生するのです。

４歳児は仲間に目が向くようになるだけでなく、仲間の能力に目が向くようになり、「〇〇くんはすごいなぁ、逆上がりができるもん」と友だちにあこがれるようになります。あこがれの友だちと同じようにできることに意味を見出すから主体的に練習しますが、練習してもすぐにはできるようにはなりません。したいけれどうまくできないマイナスの自分とつきあわざるをえないのです。だから気持ちが揺れ、積極的になれず、手持ち無沙汰になって鼻くそをほじくったり、爪を噛んだりといった癖が出やすくなり、マイナスが拡大したように見えるのもこのころです。でも、子どもたちは揺れる心を持ちながらも挑戦し続け、出来るようになっていくのです。

出来もしないのに挑戦するのはなぜ？と問われても子どもは答えられませんが、なぜかわからないけれど意味を感じ、したくなってしまうのです。だから挑戦しつづけるのですが、安定して取り組めるようになるにはこころが揺れ、マイナスをたくさん出してしまいます。挑戦するから新たなことが出来るようになるのですが、出来るようになるまでには時間がかかります。「したいけれどできない自分」とつきあいつづけられるのは、大人と自分を信じられるからではないでしょうか。こうしたマイナスをより拡大して出してくるのが、障がいのある子どもやマイナスに見られがちな特性を持っている子どもたちだから、二重にマイナスが出て、子どもも父母もしんどさが拡大するのです。

マイナスな行動が出たときには、子どもが変わりたがっているのだということをまず理解したいものです。友だちを押し倒したり鼻くそをほじくる姿の中に、自分にいらついている健気なこころをくみ取り、子どもの飽くなき挑戦を支える基本に立ち戻ることが求められます。自分と大人を信頼できているでしょうか？マイナスな自分でも大人は愛してくれていることを実感するためには、情けない姿を受けとめられることが求められます。「そんなあなたがかわいい」と朝・晩抱きしめてくれる父母の存在が子どもの安心を保障します。「ダメな自分も愛されている」「ダメなじぶんでもいいのだ」という実感を、私は「自己安定感」と呼んでいます。それだけで子どもは、自分の中のマイナス度をぐんぐんと減らすことができます。

『　続　発達の芽をみつめて　～かけがえのない「心のストーリー」～　』近藤　直子　著

次回のりんご教室

りんご①・全：１２月３日（火）　**『クリスマス製作』**

持って来るもの

子ども用はさみ・スティックのり（ある方は持って来てください）

りんご②・全：１２月１７日（火）　**『クリスマス製作』**

持って来るもの

子ども用はさみ・スティックのり（ある方は持って来てください）

『参加される皆様へ』　～ご協力をお願いします～

- お休みされる場合は、学園までご連絡下さい
- 参加費はおやつ代の１００円です。製作やクッキングの活動の時には材料費として追加で１００円いただきます。その都度連絡いたします
- 活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- 水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えて下さい）
- きょうだい児の参加はご遠慮下さい。預け先がない場合は事前に職員までご相談下さい
- トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきて下さい